

# 陸連時報 三

2017  
平成29年

2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

2017年度主要競技会日程(案).....	230
2017年 年頭にあって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
2016年度全国普及育成担当者全国会議 報告(普及育成委員会) / 安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト.....	236
2016年度競技運営委員会研修会報告 JTO'sセミナー(競技運営委員会).....	237
2016年度全国検定員会議報告(施設用器具委員会).....	238
AIMS理事会・総会報告(専務理事 尾縣貢(AIMS理事)).....	239
日本陸連アスレティック・アワード2016報告(事務局).....	240
2016数字で見る陸上競技Vol.3(都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)).....	241
大会観戦ガイド.....	242
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 2017年度主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2017年3月の理事会で最終承認されます。

主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会						
期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所				
4月	16(日)	101 日本選手権50km競歩	石川	1(土)	★ 26 金栗記念選抜中・長距離	県立総合(熊本)	22(土)~23(日)	3 ワールドリレーズ	ナッソー(バハマ)			
	16(日)	19 長野マラソン	長野	22(土)~23(日)	★ 71 出雲陸上	浜山(島根)		24(月)	アジアグランプリ①	嘉興(中国)		
5月	21(日)	ゴールデングランプリ	等々力(神奈川)	23(日)	★ GP① 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)	27(木)	アジアグランプリ②	金華(中国)			
				23(日)	★ 7 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜	30(日)	アジアグランプリ③	台北(タイ)			
				29(土・祝)	★ GP② 織田記念陸上	広域公園(広島)						
6月	10(土)~11(日)	63 全日本中学通信陸上	各地	3(水・祝)	★ GP③ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	19(金)~22(月)	2 アジアユース陸上競技選手権	バンコク(タイ)			
				5(金・祝)	★ '17 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)						
				6(土)	★ 28 ゴールデングেমズinのべおか	延岡(宮崎)						
7月	29(土)~8/2(水)	70 全国高校陸上	天童(山形)	14(日)	★ 27 仙台国際ハーフマラソン	宮城	1(木)~4(日)	22 アジア陸上競技選手権	ランチャー(インド)			
				9(金)~11(日)	○ '17 日本学生個人	平塚(神奈川)						
8月	10(土)~11(日)	101 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	9(金)~11(日)	○ '17 日本学生個人	平塚(神奈川)	調整中	日中韓3カ国陸上	寧波(中国)			
										23(金)~25(日)	★ 32 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道
										10(土)~11(日)	33 U20日本選手権混成	長野市営(長野)
9月	26(土)~27(日)	52 全国高専陸上	松本(長野)	27(日)	★ '17 北海道マラソン	北海道	12(水)~16(日)	10 U18世界陸上競技選手権	ナイロビ(ケニア)			
										26(土)~27(日)	5 全国高校陸上選抜	ヤマノエール長良(大)
										11(金)~13(日)	52 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)
10月	19(土)	33 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)	12(土)	★ 42 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)	4(金)~13(日)	16 世界陸上競技選手権	ロンドン(イギリス)			
										19(土)~22(日)	44 全国中学陸上	熊本
										26(土)~27(日)	52 全国高専陸上	松本(長野)
11月	12(日) 予定	3 さいたま国際マラソン	埼玉	8(金)~10(日)	○ 86 日本学生対校	福井(福井)	調整中	デカネーション	フランス			
										22(金)~24(日)	★ 65 全日本実業団	ヤマノエール長良(大) / ヤマノエール長良(大)
										6(金)~10(日)	72 国民体育大会	松山(愛媛)
12月	20(金)~22(日)	11 U18日本選手権	瑞穂(愛知)	22(日)	○ 29 出雲全日本大学選抜駅伝	島根	調整中					
										20(金)~22(日)	33 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)
										27(金)~29(日)	101 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)
2018 1月	21(日)	23 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(月・祝)	66 元旦競歩	東京						
										28(日)	37 全日本実業団女子駅伝	宮城
										27(金)~29(日)	48 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)
2月	3(土)~4(日)	'18 U20日本室内大阪	大阪城ホール(大阪)	4(日)	67 別大マラソン	大阪	調整中	8 アジア室内選手権	バーミンガム(イギリス)			
										18(日)	101 日本選手権20km競歩	兵庫
										18(日)	3 全国中学生クロスカントリー	昭和の森(千葉)
3月	4(日)	73 びわ湖毎日マラソン	滋賀	4(日)	○ 21 日本学生ハーフマラソン	東京	2(金)~4(日)	'18 世界室内選手権	バーミンガム(イギリス)			
										11(日)	'18 名古屋ウィメンズマラソン	愛知
										18(日)	42 全日本競歩能美	石川
3月	18(日)	42 全日本競歩能美	石川	18(日)	○ 12 日本学生20km競歩	石川	18(日)	'18 アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)			
										18(日)	39 まつえレディースハーフマラソン	島根
										18(日)	21 日本学生女子ハーフマラソン	島根
							24(木)	23 世界ハーフマラソン選手権	バルセロナ(スペイン)			

日程調整中 日本選抜陸上 場所調整中  
 ★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

# 2017年 年頭にあたって



新年、明けましておめでとうございます。  
2017年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。

昨年1年を振り返ると、まず挙げられるのが、8月、ブラジル・リオデジャネイロで開かれた第31回オリンピック競技大会で、男子4×100mリレーで銀メダルを獲得したことです。4年に一度の世界最大のスポーツの祭典での歓喜は、今なお記憶に新しく、興奮が蘇ってきます。4人のスプリンターの勇姿は、国際舞台での活躍を夢に競技に取り組んでいる多くの若いアスリートに勇気と活力を与えてくれました。男子50km競歩の荒井広宙の銅メダルも高く評価出来ます。リオデジャネイロオリンピックで2つのメダルを獲得し、世界に注目された「TEAM JAPAN」を継承し、次回オリンピックとなる2020年東京に向けて、日本陸上競技界は更なる挑戦をしまいにあります。

2016年6月、日本陸上競技連盟は第100回日本陸上競技選手権大会を開催いたしました。100年を超える歴史の中で繰り広げられた、あまたの名勝負。私たちの脳裏に焼き付いたそれらは、脈々と語り継がれています。感動を届ける、それは私たちに課せられた使命です。競技者が発揮する最高のパフォーマンスのみならず、多くの方々の使命に支えられ、100回という歴史を刻みました。100回に至る歴史の礎は、陸上競技に携わる多くの方々の永年のご尽力、ご支援のたまものであると深く感謝申し上げます。

現在、本連盟では、中長期ビジョンの策定に取り組んでおります。まだ、骨子を考察している段階ではありますが、これまでのトップアスリートの活躍により国民に勇気を与えることだけではなく、ライフステージに応じたスポーツの機会の創造、ウェルネス陸上の実現を、日本陸上競技連盟が求められていることとし、今後日本の陸上競技界が持続的に発展していくために、「トップアスリートが活躍し、国民に夢と希望を与える」、「全てのライフステージにおいて、陸上競技を楽しめる環境づくり」、を成し遂げることを謳っております。

2020年東京オリンピックのレガシーとなる育成・強化システムのフラッグシップモデルを構築するべく、世界の大舞台での活躍を期して各種施策を推し進め、ベテラン勢の円熟味の増大とともに、将来を担う若い芽を育ててまいります。更に、日本が世界の舞台で活躍するためには、競技者のみならず指導者が国際的な経験や指導力を身に付けることが喫緊の課題と考えております。指導者は、陸上競技の裾野の拡大やジュニア・ユース競技者の育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。本連盟は、国際的な指導者の養成を目標に掲げ、様々な施策に取り組んでまいります。

また、年齢に関係なく、陸上競技を広く楽しむアスレチックファミリーの拡大を目指してまいります。陸上競技をする人、ささえる人、みる人が、大いに関わり、楽しむ環境を作りたいと考えております。そして、2020年以降も陸上競技界が発展するように普及の土壌を育んでまいります。

スポーツ界を取り巻く環境は、社会経済とも密接に関係しており、変化や進化を続けております。国際陸上競技連盟は、昨年12月、ガバナンス体制の改革を加盟国・地域の大多数の賛成を得て、始動させました。本連盟は、世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たすため、国際陸上競技連盟とともに組織力を更に充実させていき、スポーツの振興はもとより、競技者も含めた多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

今一層、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶といたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟  
会長 横川 浩

# 理事会報告

## 第39回理事会

日時：2016年12月19日（月）  
13時00分～15時39分

場所：ザ・プリンス パークタワー東京  
地下2階 コンベンションホール

### 【議題】

#### 〈協議事項〉

1. 2017年度主要競技会日程
2. 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)トラック&フィールド種目代表選手団の編成について
3. 第101回日本陸上競技選手権大会参加資格
4. 第101回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格
5. 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)選手報奨金
6. 競技会における広告および展示物に関する規程の改定
7. 栄章規程の改定
8. 栄章審査委員会委員の選任

#### 〈報告事項〉

1. 強化委員会新組織体制
2. 第42回世界クロスカントリー選手権大会(2017/カンパラ)代表選手選考要項
3. 第29回IAU100km世界選手権(2016/ロスアルカサレス)報告
4. 第6期JTOs合格者
5. 特別委員会委員の選任  
・コンプライアンス委員会委員  
・後援競技会認定委員会委員
6. ロードレースコミッション活動報告

### 【議事内容】

理事総数30名中出席者29名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

#### 〈協議事項〉

1. 2017年度主要競技会日程  
尾縣専務理事より、2017年度主要競技会日程について、資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。  
(本号230頁及び本連盟WEBサイト  
<http://www.jaaf.or.jp/pdf/2017calendar.pdf>参照)
2. 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)トラック&フィールド種目代表選手団の編成について(資料1参照)  
伊東強化委員長より、第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)のトラック&フィールド種目代表選手団の編成について、資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
3. 第101回日本陸上競技選手権大会参加資格(資料2参照)  
伊東強化委員長より、第101回日本陸上競技選手権大会参加資格について、資料に基づき説明があり、原

案の通り承認された。

4. 第101回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格(資料3参照)  
伊東強化委員長より、第101回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格について、資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。なお、参加標準記録の有効期間は追って定める。
5. 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)選手報奨金  
尾縣専務理事より、第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)の選手報奨金について、資料に基づき説明があり、下記の通り承認された。

順位	金額
1位	1,000万円
2位	500万円
3位	400万円
4位	150万円
5位	100万円
6位	100万円
7位	80万円
8位	80万円

○リレー種目の報奨金は、予選と決勝に出場した全選手を対象として、上記の半額を支給する。

○ドーピング違反等で順位剥奪となった場合、報奨金の全額返納とする。

6. 競技会における広告および展示物に関する規程の改定  
鈴木競技運営委員長より、競技会における広告および展示物に関する規程の改定について、資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。

主な修改正の内容は下記の通り。

#### (1) チーム名/チーム名ロゴ

現在、大学生までは前に1か所後ろに1か所大きさに関係なく、表示ができる。それ以外は文字の高さ4cm以内40cmと定められているが、全く守られていない。2011年のルールブックにはすでに今のものが記載されている。現状を追認して、過去の規程に戻す。

#### (2) 競技役員の衣類

「競技会名/ロゴを1カ所表示することができる。高さは4cm以内とする。」という部分を「[[国内] 競技会名/ロゴを1カ所表示することができる。高さは4cm以内とする。大きさに制限は設けない。」とする。特にこのことによってスポンサーに影響を与えるとは考えにくい。

#### (3) ナンバーカード

小学生から大人まで様々な体格の競技者がいる。それらの競技者に対して一律の大きさを定めるのは難しい。最近では写真判定装置が導入され、従来のようにトラック競技ではナンバーカードが見えなくてはならないのは、監察だけとなった。競技者を識別するナンバー等の大きさは、高さ6cm～10cmで読みやすいものと規定されており、それが遵守されていれば問題ない。ナンバーカードの大きさのある程度統一したいの

であれば、要項や競技注意事項で定めてもらう方法もある。

スポンサー名や大会名の入らないナンバーカードは、高さで10cm程度小さくすることができる。そういう大会もあるので、国際ルールに合わせた表記にすることとした。

7. 栄章規程の改定（資料4参照）

尾縣専務理事より、栄章規程の改定について、資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。

8. 栄章審査委員会委員の選任

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2016

年9月28日開催理事会にて承認された強化委員長の変更に伴う、伊東浩司強化委員長の選任が承認された。

【報告事項】

1. 強化委員会新組織体制

伊東強化委員長より資料に基づき、2016年11月2日付けで発足した強化委員会新組織体制が報告された。

2. 第42回世界クロスカントリー選手権大会（2017／カンパラ）代表選手選考要項（資料5参照）

伊東強化委員長より資料に基づき、2017年3月26日にウガンダのカンパラで開催される第42回世界クロスカントリー選手権大会の代表選手選考要項が報告され

資料1 第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）  
トラック&フィールド種目代表選手団の編成について

1. 選手団編成の考え方

2020年東京オリンピックで活躍を期待する競技者に国際舞台を経験させるために、編成方針に基づき、最大限に参加資格を有する競技者を派遣する方針である。

選考競技会については、日本選手権等の国内選考競技会を重視しつつも、国際競技会でのパフォーマンスを重視するために、ダイヤモンドリーグ等の定められた国際競技会も選考要項上の評価の対象として指定する。(対象競技会は、2017年3月に開催される理事会で承認予定)

2. その他

(1) 参加標準記録及び派遣設定記録

参加標準記録は、下記の通り。

派遣設定記録は、世界ランキング12位相当の記録を設定する。(2017年3月理事会承認予定)

※ただし、記録を収めた競技会によって、選考の優位性は異なる。

(2) 資格記録の有効期間

1) 参加標準記録

10000m、混成競技、リレー

2016年1月1日～2017年7月23日

その他の種目 2016年10月1日～2017年7月23日

2) 派遣設定記録

原則、参加標準記録の有効期間に準じるが、別途定める。

(3) 追加条件

国際陸上競技連盟（以下、IAAF）の定めるInvitationによる追加条件に応じて、日本代表選手の追加条件を別途定める。

(4) リレー

各リレーとも、下記の1)、2)の条件を満たした16ヶ国に出場権が与えられる。出場権を得た場合は、代表チームを本大会に派遣する。

1) 2017年に開催されるワールドリレーズの男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーの各上位8ヶ国。

2) 上記1)以外で、参加標準記録有効期間内の記録上位8ヶ国。ただし、ホスト国（イギリス）が1)及び2)に含まれない場合は、2)による出場国は7ヶ国となる。

(5) 補足

1) 各種目のエントリー数は、IAAFが定める各種目の上限の枠を保证するものではない。

2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

3) 本大会は、2017年8月4日～8月13日までロンドン（イギリス）で開催される。

第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）トラック&フィールド種目参加標準記録・派遣設定記録

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
	10.12	100m		11.26
	20.44	200m		23.10
	45.50	400m		52.10
	1:45.90	800m		2:01.00
	3:36.00(3.53.40)	1500m		4:07.50(4.26.70)
	13:22.60	5000m		15:22.00
	27:45.00	10000m		32:15.00
	13.48	110mH / 100mH		12.98
	49.35	400mH		56.10
2017年3月開催の理事会にて決定	8:32.00	3000mSC	2017年3月開催の理事会にて決定	9:42.00
	2.30	走高跳		1.94
	5.70	棒高跳		4.55
	8.15	走幅跳		6.75
	16.80	三段跳		14.10
	20.50	砲丸投		17.75
	65.00	円盤投		61.20
	76.00	ハンマー投		71.00
	83.00	やり投		61.40
	8100	十種競技／七種競技		6200
		4×100mリレー		
		4×400mリレー		

※1500mの( )内の記録は1マイル

た。

### 3. 第29回IAU100km世界選手権（2016／ロスアルカサレス）報告

風間事務局長より資料に基づき、2016年11月27日にスペイン・ロスアルカサレスで開催された第29回IAU100km世界選手権の結果について説明があり、男子個人・山内英昭選手の優勝、男子団体2位、女子団体1位であった旨が報告された。

### 4. 第6期JTOs合格者

鈴木競技運営委員長より資料に基づき、2017年から2020年までが任期の第6期JTOsとして、6名の合格者が報告された。

### 5. 特別委員会委員の選任

尾縣専務理事より資料に基づき、今期のコンプライアンス委員会委員、後援競技会認定委員会委員について、強化委員長の変更に伴い、コンプライアンス委員会委員には、伊東浩司強化委員長の選任が、後援競技会認定委員会委員には、山崎一彦強化委員会ディレクタートラック&フィールド担当の選任が報告された。

### 6. ロードレースコミッション活動報告

尾縣専務理事より、2016年2月に発足したロードレースコミッションの活動として、大会同士の連携促進、安心・安全な大会を目指した仕組みづくり、正しいランニングの普及およびランナーサービスの提供という4つのテーマについて、ワーキンググループを作り、議論していくことが報告された。

## 資料2 第101回日本陸上競技選手権大会 参加資格

### 1. 参加資格

2017年度本連盟登録者で、下記の（1）から（4）のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

- (1) 第100回日本陸上競技選手権大会の優勝者（但し、その種目に限る）。
- (2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 第100回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者。
  - 1) 男子10000m
    - ①シニア男子12kmの優勝者。
    - ②シニア男子12kmの第2位、第3位の競技者で、男子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者。
  - 2) 女子5000m／女子10000m
    - ①シニア女子8kmの優勝者。（ただし、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る）
    - ②シニア女子8kmの第2位、第3位の競技者で、女子5000m又は女子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者。（ただし、参加標準記録を満たした種目に限る）

- (4) ・2017年度の地域選手権が、2017年5月28日までに開催された場合は、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。  
開催されていない場合は、2016年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。  
・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。  
・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

### 2. 参加標準記録

下記参照

### 3. 参加標準記録有効期間

記録の有効期間は2016年1月1日～2017年5月28日まで。

### 4. その他

- (1) 室内競技会の記録も有効とする。
- (2) 800m（含ハードル）までの記録は電気時計（写真判定装置）で計測したものののみ有効とする。
- (3) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、参加資格の優先順位に準じて出場者を決定する。

第101回日本陸上競技選手権大会 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10"40	10"50	100m	11"80	11"90
20"80	20"95	200m	24"25	24"40
46"60	46"85	400m	54"80	55"15
1'50"00	1'51"00	800m	2'09"00	2'10"00
3'47"00	3'49"00	1500m	4'22"00	4'24"00
13'41"00	13'52"00	5000m	15'40"00	15'50"00
28'20"00	28'45"00	10000m	32'30"00	33'00"00
13"95	14"10	110mH／100mH	13"80	14"00
50"42	50"82	400mH	59"00	59"60
8'50"00	8'55"00	3000mSC	10'25"00	10'35"00
2m17	2m13	走高跳	1m76	1m73
5m30	5m25	棒高跳	3m80	3m70
7m75	7m65	走幅跳	6m05	5m95
16m00	15m80	三段跳	12m60	12m40
16m40	16m10	砲丸投	14m20	14m00
51m50	50m50	円盤投	47m00	46m00
64m00	62m50	ハンマー投	56m00	54m50
74m00	73m00	やり投	53m50	52m50

### 資料3 第101回日本陸上競技選手権大会・混成競技 参加資格

#### 1. 参加資格

2017年度本連盟登録競技者で、次の(1)から(3)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む)。

- (1) 第100回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者。
  - (2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
  - (3) 2017年度の地域選手権が2017年5月 日までに開催された場合、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。  
開催されていない場合は2016年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
- ・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
  - ・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

#### 2. 参加標準記録

- (1) 男子十種競技 A 7050点 B 6950点
- (2) 女子七種競技 A 4900点 B 4800点

#### 3. 参加標準記録有効期間

- (1) 記録の有効期間は2016年1月1日～2017年5月 日まで。

#### 4. その他

- (1) 公認記録は、競技規則第260条27を満たすものとする。[第260条27一部抜粋：風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]
- (2) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、参加資格の優先順位に準じて出場者を決定する。

### 資料4 栄章規程の改定・比較表

従 前	変更後
<p>(対象) 第2条 本連盟が授与する栄章の種類、対象及び個数をつぎの通り定める。</p> <p>(11) アスレティック・アワード</p> <p>①アスリート・オブ・ザ・イヤー 当年においてその活躍が最も顕著であった競技者、1名以内に授与する。</p> <p>②優秀選手賞 当年において優秀な成績を収めた競技者、若干名に授与する。</p> <p>③新人賞 当年の活躍が顕著であり、将来が期待される競技者3名以内(東京運動記者クラブ選出の競技者男女各1名以内と本連盟選出の競技者1名以内)に授与する。</p> <p>④特別賞 陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体、若干名に授与する。</p>	<p>(対象) 第2条 本連盟が授与する栄章の種類、対象及び個数をつぎの通り定める。</p> <p>(11) アスレティック・アワード</p> <p>①アスリート・オブ・ザ・イヤー 当年においてその活躍が最も顕著であった競技者、1名もしくは1チーム以内に授与する。</p> <p>②優秀選手賞 当年において優秀な成績を収めた競技者、若干名に授与する。</p> <p>③新人賞 当年の活躍が顕著であり、将来が期待される競技者3名以内(東京運動記者クラブ選出の競技者男女各1名以内と本連盟選出の競技者1名以内)に授与する。</p> <p>④特別賞 陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体、若干名に授与する。</p>

改定は下波線箇所。

### 資料5 第42回世界クロスカントリー選手権大会(2017/カンバラ)代表選手選考要項

大会期日：2017年3月26日(日)

開催地：カンバラ(ウガンダ)

#### 1. 編成方針

国内トップレベルの競技力を有する競技者、又は今後日本の陸上長距離界を担うことを期待される競技者で編成する。

#### 2. 選考競技会

第100回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走(2017年2月25日(土)：海の中道)

- シニア：男子12km(本大会シニア男子日本代表選考レース)  
女子8km(本大会シニア女子日本代表選考レース)  
ジュニア：男子8km(本大会U20男子日本代表選考レース)  
女子6km(本大会U20女子日本代表選考レース)

#### 3. 種目及びエントリー枠

- (1) 種目
  - 1) シニア 男子10km/女子10km
  - 2) U20 男子8km/女子6km
- (2) エントリー数  
各レース最大8名エントリー可能。ただし、出場は6名(団体戦は上位4名の得点)。

#### 4. 選考基準

〈シニア種目(男子・女子)〉

- (1) 選考競技会の上位6位から代表選手を選考する。
- (2) 選考競技会6位以内の競技者が出場を辞退した場合は、各種目最低4名を派遣するために、選考競技会又は2016年度の主要競技会の実績から、本大会の編成方針を踏まえて選考する。

#### 〈U20種目(男子・女子)〉

- (1) 選考競技会の上位6位から代表選手を選考する。
- (2) 選考競技会6位以内の競技者が出場を辞退した場合は、各種目6名を派遣するために、本大会の7位以下の競技者から、選考競技会又は2016年度の主要競技会の実績から、本大会の編成方針を踏まえて選考する。
- (3) 必要に応じて、補欠選手を選考することがある。

#### 5. 選考方法

選考基準に則り全ての選考競技会終了後に、強化委員会にて選考原案を作成し、専務理事が承認する。

#### 6. 補足

- (1) 種目毎の代表は、国際陸上競技連盟エントリールール以内の人数とする。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消することがある。

# 2016年度全国普及育成担当者全国会議 報告

普及育成委員会

2016年11月25日味の素ナショナルトレーニングセンターにて全国普及育成担当者全国会議が開催された。

## 【2016年度に実施した日本陸連の新たな試み】

1. 日本陸連「トップアスリートへの道」の発行  
日本陸連2020東京オリンピックプロジェクトチームと連動して「トップアスリートへの道」の版下を作成し、各都道府県大会のプログラム等への掲載を呼びかけた。
2. 「アスリートの貧血対処7か条」の発行  
若年アスリートの貧血及び、鉄剤注射の問題に警鐘を鳴らすことを目的に、「アスリートの貧血対処7か条」の版下を作成し各都道府県大会のプログラム等への掲載を呼びかけた。
3. かけっこプロジェクトの発足  
2016年より新たにかけっこプロジェクトを発足し、「全国統一かけっこチャレンジ」「ストリートかけっこ」事業の報告を行い、協力を呼びかけた。
4. 「キッズデカスロンチャレンジ」の実施  
セイコーゴールデングランプリ陸上2016川崎、第100回日本選手権にて、IAAFキッズアスレティックスをベースとした小学生を対象としたプログラムの実施を報告した。
5. 文部科学省より「教員免許更新講習」開設者の認定を受ける  
JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会をはじめとする日本陸連主催の講習会が文部科学省「教員免許更新講習会」の対象になること

が認められ、教員への受講を促すよう呼びかけた。

6. ジャパンロードレースディレクターズミーティング (JRDM) の開催  
全国のマラソン大会のレースディレクターが一堂に会し今後の市民マラソンのあり方を議論するJRDMを開催、「ウェルネス陸上」を新たなコンセプトとして掲げ、今後積極的に市民ランナーの環境整備に取り組むことを宣言した。
  7. 全国小学生陸上競技交流大会にて新種目「ジャベリックボール投」実施  
やり投の普及を目的にニシ・スポーツとともに用器具を開発し、従来の「ソフトボール投」から「ジャベリックボール投」に種目を変更した。
  8. 部活動継続に関するアンケートの実施  
茨城県内の高校を対象に、部活動継続に関するアンケート調査を、普及政策部を中心に実施し、渡邊委員より中間報告を行った。本調査結果は、陸上競技研究紀要を通じて報告を行う。  
【各都道府県陸協における2017年度日本陸連普及育成委員会事業実施について】
  1. 2017年度JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会の実施
  2. アスリート発掘育成プロジェクト (U13、U16) の実施
  3. U16指導者講習会の実施
  4. JAAF公認コーチの実施
  5. 日本陸連公認指導者資格更新講習会の実施
- 上記1.～4.の項目の実施については、2017年3月を目処に決定予定

## 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」 ～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～ 支援対象者決定のお知らせ

安藤スポーツ・食文化振興財団と日本陸上競技連盟が実施する2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」海外短期活動支援の対象者に、ダイヤモンドアスリートの江島雅紀（荏田高等学校）、池川博史（滝川第二高等学校）をはじめとする8名の選手が決定いたしました。



（後列左より）阪口竜平選手、關颯人選手、佐藤凌選手、江島雅紀選手、川崎和也選手、田上駿選手、佐久間滉大選手  
（前列左より）日本陸連 尾縣専務理事、安藤財団 安藤宏基理事長、安藤財団 安藤徳隆副理事長

※ 池川選手は学校行事のため撮影時不在

### ■ 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援選手一覧

氏名	大学名	学年	年齢	種目	主な日本代表歴・日本選手権等成績	活動先
江島 雅紀	荏田高校	3年	17	棒高跳	2015世界ユース選手権6位 2016 U 20世界選手権6位 2016インターハイ、国体優勝	ヘルシンキ (フィンランド)
池川 博史	滝川第二高校	3年	18	やり投	2016アジアユース選手権 砲丸投3位、やり投6位 2016日韓中ジュニア交流 やり投1位 2016 U 20世界選手権 やり投出場 2016インターハイ やり投優勝	イエナ(独) クオルタネン (フィンランド)
佐久間滉大	法政大学	2年	19	走幅跳	2014世界ジュニア選手権5位	フェニックス(米)
關 颯人	東海大学	1年	19	長距離	2016 U 20世界選手権5,000m 9位 2016出雲駅伝 3区区間賞	ユージーン(米)
阪口 竜平	東海大学	1年	19	1,500m	2016 U 20世界選手権 1,500m 出場	ユージーン(米)
川崎 和也	順天堂大学院	院2年	24	十種競技	2016日本選手権 十種競技2位	サンタバーバラ(米)
田上 駿	順天堂大学	1年	19	十種競技	2016アジアジュニア選手権4位 2014、2015インターハイ優勝	ノルトライン(独) サンタバーバラ(米)
佐藤 凌	東海大学	4年	22	走高跳	2012日韓中ジュニア交流出場 2016日本選手権 走高跳2位	シドニー(豪)

活動期間：2016年12月から2017年4月にかけて、学校の長期休暇を利用して活動を行います。



# 2016年度競技運営委員会研修会報告 JTO'sセミナー

競技運営委員会

期日：2016年11月19日（土）、20日（日）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

## 第1日目（11月19日）

○あいさつ 鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

・JTO'sは発足して11年、競技会における大きなトラブルはなくなってきた。

・2020年に向けて、資質向上を目的としてこの研修会を企画した。第5期のJTO'sに講師としてお話をしていただき、改めてお互いの学習としていきたい。

○基調講演「JTOに求められる役割とオリンピックに向けての課題」 鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

・TOKYO2020の競技組織図について、審判編成について、競技役員と競技ボランティアについて、オリンピックに向けての競技役員の推薦条件について、過去のオリンピックの事例とTOKYO2020に向けた現状の説明。

・ITOはルール改正で各種目の審判長となることとなった。オリンピックに向けて、JTO'sは主任・副主任として活躍していただきたい。

## （JTO'sセミナー）セッションⅠ

○トラック競技 脇田 篤実 JTO

・800mの番組編成、スタートチーム、縁石、ラインについて、アクシデント時の対応について解説。

Q（廣末 JTO）…800mのブレイクラインの件について、角柱であるが、触れたりしたらどうなるのか？

A（鈴木委員長）…越えた後の足の着き方が問題であるので、触れたりしても問題がない。

○フィールド競技（跳躍） 藤田 昌彦 JTO

・ナンバーカードの付け方、同時申し込み時、走高跳・棒高跳においての事前申告による無効試技扱いの意義、ディスタンスマーカーの使用、三段跳における踏切板の位置のルールについて解説。

○フィールド競技（投てき） 新宅 昭二 JTO

・競技のタイマー始動のタイミング。国際・国内競技会の映像を通して、審判配置・配置数の検証。直近の事故例と安全面への配慮。光波計測装置のトラブル事例と対応。

Q（嶋田 JTO）…囲いが動かない場合、どうすれば良いか？

A（安池 JTO）…安全性を確認の上、動かないのは仕方がない。

○混成競技 岡本 克巳 JTO

・混成競技とは、次の種目へのタイムテーブルの組み方、競技の継続について、不正スタートの対応及び出発係の対応、風力の条件、試技数、試技時間、フィールド種目で2ピット利用の際の対応、最終種目のナンバーカード、同得点の際の順位決定方法について、混成競技審判長の役割、混成競技係主任の役割、混成競技係の役割について説明。

・国内ルールと国際ルールの比較について説明。

○総務 野末 雅文 JTO

・総務の役割について、競技規則における総務の表記について、TDの任務について、競技会ディレクターの任務について説明。

○記録情報 羽田 雄一 JTO

・記録情報処理員の役割について、他の部署との関わりについて、ビデオ記録について、公式のビデオ撮影について、ビデオ記録の国内適用についての提言、世界記録が樹立された際の申請方法について説明。

○TIC 関根 春幸 JTO

・実際の競技会でのTICの開設場所や開設時間、役割を提示し、その中で特に①抗議と上訴②Final ConfirmationについてTICの果たす役割を説明した。さらにDaily Programを実際に見ながら、どんな情報が提供されているのか、競技結果はどこまで記載されているのかを説明した。

○EP 片岡 裕介 JTO

・国際競技会におけるEPの位置付けと方向性、チームメンバー、要素（設備、映像、使用言語、アナウンス方法等）について解説し、具体例として北京世界陸上でのEPをビデオ映像で見て理解を深めた。

## 第2日目（11月20日）

### セッションⅡ

#### （1）ワークシート作成（60分）

・全国の競技会で最近発生したトラブル事例を、参加者それぞれでワークシートを作成した。

#### （2）グループ討議（120分）

・出席者を経験などで均等に6つのグループに編成し、グループ討議を実施した。続いて指定されたグループごとに異なる設問を、それぞれグループ単位で議論（20分）した後、その内容について全体で議論（各20分）し、論点を確認した。

#### 〈採り上げた事例（抜粋）〉

・投てき競技における「競技の中断」の考え方

・上訴事案発生時における諸手続き

・「助力」と「人道的配慮」の関係

・試技放棄を申し出た競技者の成績の取り扱いなど

講評 鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

・何か起きた際に紐解いていくのはルールブック。その精神に照らし合わせて考えていく必要がある。ルールの存在意義は①競争を平等にするもの、②記録の信頼性を担保するもの。書かれていないことはその精神に則り我々で考えていく必要がある。

・何か問題があれば一緒に考えていければと思う。

# 2016 年度全国検定員会議 報告

施設用器具委員会

日時 2016年11月26日(土)、27日(日)  
場所 横浜市スポーツ医科学センター(日産スタジアム内)  
参加者 施設用器具委員会 委員11名 全国検定員47名  
日本陸上競技連盟事務局 井上博友、浅田大吾、尾添奈美子

1日目 2016年11月26日(土)

司会 福島委員

◇開会◇ 施設用器具委員会 副委員長 高木良郎  
◇挨拶◇ 日本陸連 専務理事 尾縣 貢  
全日本女子実業団駅伝参加につき欠席  
◇挨拶◇ 施設用器具委員会 委員長 平塚和則  
委員長になって3年半が過ぎた。今回の会議はP160、P161参照。全国から48名の方に来ていただいた。北海道大聖、大阪加藤、岐阜松田、山口古林4名が新規。

◇会議◇

- (1) 検定員の心構えと検定の注意事項 平塚委員長
  - (1) 検定員の心構え
  - (2) 派遣費用の取り扱いと注意事項
  - (3) 最近の事例・確認事項
    - ①検定実施後の保留等  
5年たてば必ずどこかが改修が必要ははずだが、何も手をつけずに検定した場合保留等の措置を取ることがある。保留は不合格という意味。1年以内に解消しないと公認取り消しとする。このような競技場があることは望ましくない。しっかり確認し指導を。
    - ②競技場での修正の事例
    - ③質問事項
    - ④現地指導の回答書作成
    - ⑤長距離競走路の公認大会の確認
    - ⑥長距離競走路の検定・報告の留意事項
    - ⑦長距離歩路の計測
  - (3) 検定業務の総合注意
    - ①検定業務とは
    - (4) 申請の手続き、公認期間、廃止
    - (5) 検定員の地元大会での審判活動について  
検定員は技術総務・公式計測員として活動してほしい。
- (2) 実測距離の計算事例 苅込委員 米岡委員  
30分間の計算テスト。仮の測定数値を用いての実長の計算のテストを行った。
- (3) 規則の修正と対応 高木副委員長  
競技規則の修正についての説明
- (4) 陸上競技場の現状と検定に関する注意事項 鈴木特別委員
  - (1) 申請書 県陸協から直接出てしまつて検定員が知らない場合がある。県陸協事務局と相談してそうならないようにしてほしい。
  - (2) 手続きの流れ 図をよく見てほしい
  - (3) 公認期間を過ぎて検定を行った場合新設扱い。そうならないように延期願ひを出させる等するように。
  - (4) 公認日 公認日の変更を希望することがある。早めに対応を。新設の場合検定後3ヶ月以内に設定できる。シーズンと重ならないような指導も必要。
  - (5) 公認有効期間内の昇格・降格  
昇格は新設。継続と新設の差額を払う。降格の場合は差額は返金しない。P30を参照のこと。
  - (6) 検定延期願ひの取り扱い どこかで止まってしまうと問題になることがあるのでよく確認を。出せばいいというわけではない。相談を受けた場合はよく指導を。
  - (7) 廃止届 出さないと出さなければ2ヶ月で廃止されるが、各県で確認をして届けを出させるように。
- (5) 検定に関する課題と意見交換 大島委員 山口委員
  1. 照明の件
  2. 3種の写真判定装置・ハンマー開いについて
  3. 派遣費用の扱いについて
  4. バック直走路。ハードルのマーキングについて
  5. 3、4種競技場の用器具管理・バック走路の必要施設について
  6. AゾーンBゾーンに濃淡・レーンに濃淡
  7. ヘリオスの台数について

以上の事項について質疑応答を行った。

2日目 2016年11月26日(土)

- (6) レベルと角度計測(トランシット)の実測実技 全委員  
4班に分かれてレベルの計測、角度の計測の実技研修。各自が実際に測定の確認を行った。
- (7) 実測距離計算事例の講評・解答説明 苅込委員 米岡委員
- (8) IAAFクラス1・2認証取得検定の注意事項 福島委員

1. 認証取得の注意点
  - (1) 申請での注意点
  - (2) 計測の準備
  - (3) 第1種陸上競技場との検定の違い
2. 計測する地点と注意事項
  - (1) 計測する地点
  - (2) 計測の注意事項
  - (3) 業者との役割分担  
業者と協力し作業を進めていく。
3. 報告書の作成
  - (1) 報告書の事前準備  
機器の機種、検査年月日、検査書(英文)を用意する。管理者サインがいる。英文で報告書を作成する。
  - (2) 計測データの入力
4. 報告書の提出  
報告書はPDFにしてIAAFにメールで送信する。その後やりとりがあつて合格が出る。陸連が費用を立て替えてその後申請者に請求書が行く。

(10) IAAFの動向 高木副委員長

◆規則修正 4年に1度大きな改正がある。2017年に改正された規則は2017年11月1日から有効になるが日本では2018年4月1日からとなる。タイムラグが生じるので注意を。

【スタプロの定義変更】

【IAAFクラス認証の有効期間】5年とした。

【投てき用具の重量規格】規則から削除。ガイドラインに移される。

【投てき可能な人工芝】人工芝は規則に反していない。これから検討。

【継続審議】意見があればあげてください。

◆規則の再確認

◆IAAF認証制度と日本陸連公認検定

◆リオの競技場

現場の写真を用いての説明。

(9) 用器具の検定と競技会での投てき用具の検査 高沼委員

用器具の検定についての説明と投てき用具の検査について実際の器具を用いながらの説明を行った。

◇質疑応答◇

会議での議題に対する質疑応答を行った。

◇挨拶◇ 施設用器具委員会 委員長 平塚和則

2日間いろいろありました。もっと聴きたいこと発信したいこともあると思う。こちらから一方的に話した場面もあるが理解してもらいたい。陸上競技場、コースは記録を争うものである。お願いしたいのは北海道から沖縄まで同じ条件で競技ができること。何か意見があればメールでも平塚まで。

◇閉会◇ 施設用器具委員会 副委員長 大島 巖



# AIMS理事会・総会報告

専務理事 尾縣貢 (AIMS理事)

国際マラソン・ディスタンスレース協会 (AIMS = アイムズ) の理事会と総会がギリシャのアテネで開催され、AIMSの理事として両会議に出席した。

世界へのロードレースの浸透を目的に1982年に設立されたAIMSは、世界の主要レースが加盟する任意団体で、国際陸上競技連盟 (IAAF) の協力団体でもある。IAAFと共同でコース計測の基準を策定し、道路競走の世界記録承認の統一した条件づくりを進めてきた。1990年～2010年には、本連盟の帖佐寛章顧問が会長を務めていた。

AIMS理事会は基本的に年2回、総会は2年に1回の開催であり、総会では都度、理事の半分ずつが改選となる。アテネでは、理事会が11月8日 (火)～9日 (水)、総会が10日 (木)～11日 (金) におこなわれた。

今回の理事会と総会は、当初、エクアドルのキトで予定されていたが、同国の地震や経済混乱の影響で、辞退となったことからアテネがホストを引き受けることとなった。ギリシャにとっては、本年が、近代オリンピックのマラソン実施120周年ということで、世界中のマラソン関係者が集うAIMS理事会と総会は最大歓迎という印象であった。

それぞれの報告は、下記の通り。

## 【理事会】

AIMS理事会は、スペインのパコ・ボラオ会長以下、副会長2名、理事8名で構成される。このほか、マーケティングと広報の専門家が、アドバイザーとして参加している。

## ◆議題

1. 前回議事録の承認
2. AIMS総会及び選挙の準備状況確認
3. IAAFとの協力関係
4. AIMS法人化について
5. 広報担当からの報告
6. 機関誌及びウェブ担当者からの報告
7. 距離計測など技術面についての動向
8. 加盟レース数の動向
9. 財務及びマーケティング
10. AIMS主催チルドレンレースの実施報告
11. マラソン博物館 (ベルリン) について

理事会の最大の関心事は、加盟レースをいかに増やすかである。加盟数は年々、増加しており現在408レースを数えることが報告された。

AIMSの主要な事業には、年4回の機関誌「Distance Running」の発行と、途上国で実施しているチルドレンレースがある。こうした事業の継続のための財源は重要であり、いかにスポンサーを増やすかについて理事会では多くの時間が割かれている。

このほか理事会では、AIMSがIAAFと共同で基準を策定した道路コース計測に関連し、自転車計測の世界的現状や自転車計測員の動向について報告がなされた。

## 【総会】

総会には、加盟408レースのうち、約120の参加があった。日本からは、東京マラソン、福岡国際マラソン、名古屋ウイメンズマラソン、ぎふ清流ハーフマラソンからの代表者の参加があった。総会は、つぎの3部構成となっていた。

1. 理事会からの年次報告
2. 選挙 (理事改選と次回総会開催地)
3. 講演とシンポジウム

## ◆理事会からの報告

AIMSのボラオ会長から、事業や財務などの年次報告がなされるとともに、日本のアールピーズ社が、AIMSのスポンサーとなったことが発表された。

その後、同社担当者により、業務内容とAIMS加盟レースへの提案についてプレゼンテーションがおこなわれた。提案内容は、現在、日本国内のレースでおこなっているネットによる共通エントリシステムを世界に広げるというもので、多くのレースの参加を呼び掛けるものだった。

## ◆選挙

AIMSでは、2年ごとに開催される総会で、理事の約半分を改選しており、今回は、副会長1名、理事3名が改選となった。

また次回の総会開催地も総会での投票で決定し、4つの候補地のなかから、エストニアのタリンに決定した。同国の大統領がビデオメッセージで登場するなど、総会誘致に熱心な様子が印象的だった。

## ◆講演とシンポジウム

2日間おこなわれた総会のなかで、初日には、年次報告など主要議題の後、「マラソンの未来」と題する講演があり、複数の立場からの登壇者があった。

- ・IAAFロードランニングコミッション委員長
- ・ヨーロッパ陸連副会長
- ・ボストンマラソン レースディレクター
- ・香港マラソン レースディレクター

このうち、IAAFロードランニングコミッションのカバルボ委員長による講演の主要内容はつぎの通り。

- ・ラベリング対象レースにIAAFから技術代表(TD)の派遣
- ・ラベリングの必要国数変更の検討
- ・ラベリングレースでのドーピング検査について
- ・同コミッションに日本や中国からの委員追加を検討

2日目は、選挙に続いて「アテネマラソン成功の秘密」について、同マラソンレースディレクターからの講演と「安価なテレビ中継方法」についてAIMSエリアPRマネージャーによる紹介の後、「選手はなぜ騙そうとするのか」と「ドーピング」をテーマにシンポジウムがおこなわれた。

アテネマラソンの講演は、マラソン発祥の地としての自負を感じさせたいへん情熱的な内容で、年々参加者が増加しているという運営のノウハウは、世界各国からの参加者にも好意的に受け入れられていた。

シンポジウムのテーマは、ドーピング問題が、世界のロードレースでも大きな関心事であることを示していた。1994年に検査機関の不手際により、資格停止処分を受け、その後、復権したイギリスの女子800m元代表モダール氏が基調講演し、自身が大会出場機会を奪われた経験から、ドーピングしていない選手まで出場機会を奪うロシア陸連へのIAAFによる制裁について批判したのだが、ヨーロッパ陸連のグラシア副会長は、IAAFの立場で反論。ロシアの事例は、個人のドーピングではなく、「State Doping (国ぐるみのドーピング)」であり、IAAF内でも、議論に議論を重ねた決定である。さらに選手たちは、国内大会には出場できるのであり、出場機会を奪われているわけではない。国際大会についても、基準を満たせば出場を認めているが、多く申請があったうち、基準を満たしたのは1名だけだったことを強調した。最後にボラオ会長が、「ドーピングと関わらなくてはならないことは、すべての参加者の共通理解だ」と、しめくくった。

# 日本陸連 アスレティック・アワード 2016 報告

事務局



2016年12月19日(月)に「日本陸連 アスレティック・アワード2016」をザ・プリンスパークタワー東京において開催いたしました。

本表彰式は、その年の日本選手権優勝者の栄誉を称えるとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰するもので、記念すべき10回目の節目を迎えました。

当日は、選手45名と日ごろから陸上競技界をご支援いただいているスポンサー各社、関係者の方々、そして今回はファンの皆さまも初めてご招待し、総勢250名様にご出席を賜り、受賞者をお祝いするとともに、ご出席者同士での交流を深められておりました。

## 〈受賞者一覧〉

### ■ Athlete Of The Year

- ・第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)



特別賞・野口みずきさんへのプレゼンターは高橋尚子理事

### 男子4×100mリレー 日本代表

山縣亮太(セイコーホールディングス)、飯塚翔太(ミズノ)、桐生祥秀(東洋大学)、ケンブリッジ飛鳥

### ■ 優秀選手賞

- ・荒井広宙(自衛隊体育学校)
- ・澤野大地(富士通)
- ・松永大介(東洋大学)

### ■ 新人賞

- ・ケンブリッジ飛鳥/東京運動記者クラブ選出(男子)
- ・上原美幸(第一生命グループ)/東京運動記者クラブ選出(女子)
- ・江島雅紀(荏田高校)/日本陸上競技連盟選出

### ■ 特別賞

- ・野口みずき
- ・山本篤(スズキ浜松AC)



Athlete Of The Yearを受賞した4選手には、北京オリンピック男子4×100mリレー日本代表メンバーが盾を授与

各受賞者コメント、「アスレティック・アワード2016」の動画などは日本陸連公式WEBサイトをご覧ください!

<http://www.jaaf.or.jp/> 又は、 **アスレティック・アワード 2016**

検索

# 2016数字で見る陸上競技 Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)

事務局

2016数字で見る陸上競技、3回目の今回は陸上競技における日本体育協会公認スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。なお、今回ご紹介する数字は、2016年11月18日付け登録者数です。

NO.	都道府県名	JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		合計
		日体協公認指導員	日体協公認上級指導員	日体協公認コーチ	日体協公認上級コーチ	
1	北海道	43	0	12	8	63
2	青森	20	2	11	5	38
3	岩手	25	0	22	8	55
4	宮城	32	0	8	2	42
5	秋田	20	0	9	0	29
6	山形	64	0	18	6	88
7	福島	118	0	25	3	146
8	茨城	23	0	23	12	58
9	栃木	16	0	15	4	35
10	群馬	67	1	25	2	95
11	埼玉	116	2	41	13	172
12	千葉	61	3	42	12	118
13	東京	185	3	58	28	274
14	神奈川	91	0	26	8	125
15	山梨	31	12	12	4	59
16	新潟	58	5	23	5	91
17	富山	78	0	10	1	89
18	石川	31	1	9	3	44
19	福井	53	0	18	2	73
20	長野	33	3	28	5	69
21	静岡	71	7	26	6	110
22	愛知	66	0	30	6	102
23	岐阜	22	5	16	4	47
24	三重	65	2	25	4	96
25	滋賀	22	0	22	4	48
26	京都	33	0	29	5	67
27	大阪	63	3	14	3	83
28	兵庫	42	1	18	4	65
29	奈良	19	0	13	2	34
30	和歌山	68	0	10	6	84
31	鳥取	41	0	7	4	52
32	島根	12	0	5	3	20
33	岡山	17	0	16	5	38
34	広島	96	3	17	8	124
35	山口	37	2	13	5	57
36	徳島	20	1	5	1	27
37	香川	24	0	18	3	45
38	愛媛	26	0	17	7	50
39	高知	30	1	15	1	47
40	福岡	53	3	12	9	77
41	佐賀	10	1	7	2	20
42	長崎	14	8	15	2	39
43	熊本	30	2	12	6	50
44	大分	25	17	14	2	58
45	宮崎	59	3	16	0	78
46	鹿児島	63	0	21	2	86
47	沖縄	21	3	4	3	31
	合計	2,214	94	852	238	3,398

# 大会観戦ガイド

## 皇后盃 第35回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

新春の都大路で競う皇后盃全国女子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道、競技場でご声援ください！

▼日時：2017年1月15日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場

・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分

・京都市営バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：9区間42.195km

・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

・第2区4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）

・第3区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）

・第4区4km（丸太町河原町－北白川山田町）

・第5区4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）

・第6区4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）

・第7区4km（北白川別当町－丸太町寺町）

・第8区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）

・第9区10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ

1月15日（日）12時15分～

▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一

1月15日（日）12時15分～



昨年度は愛知が初優勝を飾った（写真はアンカーの鈴木亜由子）

▼大会公式サイト：

<http://www.womens-ekiden.jp/>

▼問合せ先：皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝事務局  
（京都新聞COM事業局内）

TEL：075-213-0367 / FAX：075-241-5271

## 天皇盃第22回全国都道府県対抗 男子駅伝競走大会

新春の安芸路で競う天皇盃全国男子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道でご声援ください！

▼日時：2017年1月22日（日）12時30分スタート

▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR航空駅東（廿日市市大野）を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。

▼アクセス：広島市平和記念公園

JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩10分、「原爆ドーム前」下車徒歩10分

▼区間・コース：7区間48.0km

・第1区7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）

・第2区3km（広電井口駅東－海老園交差点）

・第3区8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）

・第4区5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）



昨年度は愛知が15年ぶり2回目の頂点に立ち、女子と合わせて史上初のアベック優勝を飾った（写真はアンカーの山本修平）

- ・第5区8.5km (JR阿品駅南-広島工大高前)
- ・第6区3km (広島工大高前-草津橋)
- ・第7区13km (草津橋-広島市平和記念公園前)

▼テレビ放映予定：NHK総合  
1月22日(日)12時15分～

▼問合せ先：天皇盃全国男子駅伝事務局  
TEL：082-292-0601 / FAX：082-292-0680

▼大会公式サイト：  
<http://www.hiroshima-ekiden.com/>

## 第36回大阪国際女子マラソン大会 兼第16回世界陸上競技選手権大会 (2017 / ロンドン) 女子マラソン代表選手選考競技会

▼日時：2016年1月29日(日)12時10分スタート

▼会場(スタート・フィニッシュ)：  
大阪・ヤンマースタジアム長居  
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500

▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～  
大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪役所  
～御堂筋～道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～  
大阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和  
町～ヤンマースタジアム長居(42.195km)

▼アクセス：ヤンマースタジアム長居  
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、JR阪和線「長居」駅  
または「鶴ヶ丘」駅下車

▼テレビ放送予定：関西テレビ系(全国ネット)  
1月29日(日)12時00分～

▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局  
TEL：06-6633-9632



昨年度は福士加代子が2時間22分17秒の日本陸連が定めた五輪派遣設定記録を突破して優勝

▼大会公式サイト：  
<http://www.osaka-marathon.jp/>

## 2017日本ジュニア室内陸上競技 大阪大会

▼期日：2017年2月4日(土)9時30分競技開始  
2月5日(日)9時30分競技開始

▼会場：大阪・大阪城ホール  
大阪市中央区大阪城3-1 TEL：06-6941-0345

▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園駅下車徒歩5分

▼競技種目：  
【2月4日(土)】

中学生の部  
男子 60m 60mH 走幅跳 棒高跳  
女子 60m 60mH 走幅跳

ジュニアの部  
男子 60mH 三段跳  
女子 60mH

【2月5日(日)】

中学生の部  
男子 800m  
女子 800m  
ジュニアの部  
男子 60m 1500m 走高跳 棒高跳 走幅跳  
女子 60m 1500m 走高跳 棒高跳 走幅跳

▼問合せ先：大阪陸上競技協会  
TEL：06-6697-8899

▼日本陸連WEB内大会ページ：  
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1390/>



昨年度の大会より(写真は男子ジュニア60m決勝)



# JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5-4-18  
 コーポグランデ西川田駅前ビル103  
 TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549  
<http://www.jaaftochigi.jp/>

ブラジルのリオデジャネイロを主体として、世界最大のスポーツの祭典・第31回夏季オリンピックが初めて、南アメリカ大陸・ブラジルで開催されました。

4年に一度のスポーツの祭典では、日本国内はもとより、本県出身・所属の選手の活躍に県民の大きな期待が集まりました。

そのような中、メダルには届きませんでしたが陸上・女子やり投に出場した海老原有希選手を初め、本県出身・所属の選手が素晴らしい活躍をされ、県民に大きな感動と元気を与えてくれました。4年後の東京オリンピックでの活躍が今から大変楽しみです。

今年度、「各全国大会等で優勝した選手」は、次のとおりです。

第32回全国小学生陸上競技交流大会男子・ジャベリックボール投で市村友聖選手が57m34の大会新記録を出し見事優勝、第47回ジュニアオリンピック陸上競技大会男子B・走幅跳でカトラルニール・マイケル選手が6m56で優勝、第62回全日本中学校通信陸上競技大会男子2年・100mで関根功織選手が11秒14を出し優勝するなど素晴らしい成績を残し日本一に輝きました。

また、「県新記録」を樹立した作新学院大学リレーメンバーが関東学生インカレにおいて、男子4×400mリレー決勝で3分12秒55の「県新記録」を樹立し、第69回岡山インターハイにおいて、男子4×100mリレー決勝で、作新学院高等学校リレーメンバーが見事に第4位入賞を果たし、準決勝で出した記録40秒42を樹立して、「県新記録」・「県高校新記録」を出す輝かしい成績を残しました。

12月は、関東・全国中学校男・女駅伝大会、全国高等学校男・女駅伝大会、年明けには、全国都道府県対抗男・女駅伝大会等のピクレースが開催されます。

各大会において、本県代表選手の活躍が大変楽しみであり、多くの県民の人々に夢と感動を与えてくれることを大いに期待しております。  
 (文責：理事長 大谷津薫)

# JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店気付  
 TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791  
<http://gold.jaic.org/gunma/index.html>

リオデジャネイロオリンピックに3000mSCで、群馬県立伊勢崎清明高等学校出身で順天堂大学の塩尻和也選手とマラソンで前橋第七中学校・群馬県立中央高等学校(現：群馬県立中央中等教育学校)出身の北島寿典選手が出場しました。オリンピックは、「参加すること」に意義がある」という言葉に表されるように、2020年東京オリンピックに向けて、2選手が布石をつくってくれたと思います。

また、本年度より群馬陸協は、群馬県障がい者陸上競技協会を立ち上げ障がい者競技者への支援もスタートさせました。2回の記録会を実施し競技会運営に携わりました。これにより、2020年東京パラリンピックに向けての第一歩も踏み出しました。

岩手国体では、成年男子円盤投で堤雄司選手・成年女子5000mで西原加純選手が優勝しました。また、成年女子棒高跳で濱名愛選手が3位になりましたが、濱名選手は、日本女子棒高跳界のトップ選手として活躍してきましたが、岩手国体で選手生活にピリオドを打つことになりました。長い間、大変お疲れ様でした。

※ 8月号に掲載させていただきました。故高橋勝則競技運営委員長の通夜・葬儀・告別式へ参拝していただいたお礼の言葉は、高橋家ご家族・ご親族になりかわりまして記載させていただきました。

# JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30 上尾運動公園陸上競技場内  
 TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566  
<http://sairiku.net/>

10月に行われた第71回国民体育大会(岩手県)において、5種目(成年男子800m・西久保達也(早大)、成年男子やり投・新井涼平(スズキ浜松AC)、少年男子Aやり投・相澤潤一郎(西武台高)、成年女子5000m競歩・岡田久美子(ビックカメラ)、少年女子B100mH・山西桃子(三室中))で優勝し、男女総合3位、女子総合3位という結果を残しました。

11月13日(日)に第2回さいたま国際マラソン大会が、さいたま新都心のスーパーアリーナ、スタート・フィニッシュで快晴の下開催されました。代表チャレンジャーの部には220名の参加で、チェイエチ・ダニエル選手(ケニア)が大会新記録の2時間23分18秒で優勝しました。日本人トップは、那須川瑞穂選手(ユニバーサル)が2時間33分16秒のタイムで5位に入賞しました。

一般の部には約6000名のランナーが出場し、制限時間6時間の中でほとんどのランナーが完走しました。当日は気温が高く、あまり良い条件ではありませんでしたが、大会記録が誕生し、今年度のマラソンの幕開けとしては、満足できる大会になったと思います。また、来年度の大会に向けてより良い、記録の出る大会になるよう、日本陸連と連携を図り、埼玉陸協として努力していきたいと考えています。

(文責：総務委員会 木村一也)

# JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323  
 千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内  
 TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314  
<http://www.jaaf-chiba.jp/>

トラックシーズンも終わり、各チームとも来シーズンに向けての準備に入っていることと思います。岩手国体も復興の最中の大変な時期でありながら盛り上がりのある大会として無事に終了し、本県も天皇杯6位、皇后杯5位と好成績で締めくくることができました。細部まで配慮の行き届いた大会を運営していただきました関係の皆様、心より感謝申し上げます。本県では数年前より、国体はもとより東京オリンピックを見据えたタレントの発掘と育成に向けて、ジュニアから成年に至るまでの幅広い強化を行ってまいりました。その成果が徐々にではありますが、結実してきたのではないかと手ごたえを感じております。冬季の駅伝シーズンに向けて、いい糧を繋ぐことが出来たとします。

さて、第32回東日本女子駅伝が11月13日(日)に福島市で行われました。今大会は、リオオリンピック5000m日本代表の尾西美咲選手(積水化学)をキャプテンに中学・高校・社会人と実力のあるバランスのとれたチームを編成し、大会2連覇と大会記録更新を目指しました。大会当日は、1区の加世田選手が区間2位、2区の木村選手は2年連続区間1位と好調なスタートを切りましたが、当日の暑さの影響もあり3区以降の選手は各々の力を出し切れずに健闘をしたものの準優勝という結果に終わりました。この反省を生かし、京都・広島全国都道府県対抗駅伝では、一人一人が全力を出し切れるよう「チーム千葉」一丸となって、男女同時入賞を目指したいと思います。

(文責：強化委員長 伊東謙二/駅伝部長 滝田輝行)





# 陸協NEWS

**JAAF**  
TOKYO

公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021 新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル5F  
TEL.03-3203-6123 FAX.03-5292-0196  
<http://www.toriku.or.jp/>

2017年6月は東京陸協として1年間の事業報告、決算の承認を受けると同時に、4年毎の評議員の改選、2年毎の理事・監事の改選が行われる重要な時期にあたります。

2016年度も東京都中学校春季陸上を皮切りに、東京陸上競技選手権、東京リレーカーニバル、全国小学生陸上東京、東京ジュニア陸上、東京投てき競技会兼走幅跳競技会、東京都障害者スポーツ大会、柴又100km、等、主催大会7大会、共催、運営協力、後援、スポーツイベントの開催で200を越す事業（行事）をしてまいりました。

また、強い東京と言えるように強化事業に重点を置き、東京国体をスタートに、長崎、和歌山、岩手国体4年連続で、天皇盃、皇后盃の獲得に係わるような安定した成績を残すようになってきました。また、東京育ちの競技者のケンブリッジ飛鳥選手が、リオオリンピックの男子4×100mRでチームJAPANの1員として銀メダルを獲得しました。

公益法人としての使命である「東京のスポーツ文化発展の為」を旗印に、多くの都民が陸上競技を通して健康で、明るく楽しい生活づくりに力を出せるように、東京20m20cmかけっこ・トライ、味スタ6耐、駒澤6耐タスキリレー、シニア対象の都民健康マラソン等、各種のイベントの開催も手掛け、2020年の東京大会が都民はもちろん国民が一つになるよう努力したいと思ふ。

(文責：有澤政雄)

**JAAF**  
YAMANASHI

一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024 甲府市北口2-14-14 山梨文化会館東館内  
TEL.055-251-4581 FAX.055-251-4581  
<http://yamanashitf.web.fc2.com/>

本年もトラック&フィールドでの明るい話題が多かった。8月リオで行われたオリンピックで400mHに出場した野澤啓佑選手が予選突破の大活躍。インカレでは1000mでニヤロ選手が2位、岩手国体では成年400mHで野澤啓佑選手が4位、少年三段跳で横森友朗選手が3位、成年三段跳で郷持早紀選手が4位、少年100mHで三吉南緒選手が4位、少年走幅跳で山口華枝選手が5位、少年1500mで小笠原朱里選手が8位、ジュニア・ユース大会でも剣持クリア選手が三段跳2位、山口華枝選手が走幅跳4位、三吉南緒選手が100mH 5位。ジュニアオリンピック大会では古屋日奈子選手が5位など有終の美を飾ることが出来た。そして10月からは、駅伝シーズンに突入、出雲全日本大学選抜駅伝で山梨学院大学が2位、11月の全日本大学駅伝では3位入賞、そして伊勢崎市で開催された関東高校駅伝においては山梨学院高男子が関東初制覇、山梨学院高女子が3位の素晴らしい成績を残してくれ、全国大会へ大きな弾みをつけてくれた。12月は全国の小学生・中学生・高校生の各種駅伝大会があります。小学校は大園陸上クラブ、中学校では男子が石和中、女子は玉幡中、高等学校では山梨学院附属高がアベックで優勝し、大阪、滋賀そして京都での全国大会に挑みます。大きな夢、目標に向かって活躍してほしいと思ふ。また正月の箱根駅伝での山梨学院大学、京都、広島での都道府県対抗駅伝での活躍を大いに期待したいと思ふ。これからも小規模協会の特性を活かしながら「山梨はひとつ」の合い言葉の下、一致結束して前進する山梨をめざします。

(文責：専務理事 保坂一仁)

**JAAF**  
KANAGAWA

一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012 横浜市中区相生町1-18 光南ビル5F-B  
TEL.045-210-9660 FAX.045-210-9667  
<http://www.kanagawariku.org/>

神奈川県は、第1種公認競技場2カ所を含めて18カ所の競技場と7カ所の競走路を有し、神奈川陸上競技協会主催大会・郡市陸上競技協会主催大会・中体連、高体連の大会の審判活動は元より、全国小学生陸上競技交流会・ジュニアオリンピック大会・実業団対学生・関東学生陸上競技大会・東京箱根間大学駅伝競走・日本選手権リレー競技大会・ゴールデングランプリ大会と、小学生から学生、社会人、海外のトップアスリートが集う大会まで、10年近くにわたり、大変に幅広い選手層に対して審判活動を行ってきました。

ルールを十分に理解していない競技者から、海外での大会でも活躍し、記録や勝負をかけて競技に臨む、ルールを熟知している競技者まで、国内外の多彩な競技者を相手に、ルールに基づき大会に応じた競技運営と審判活動を続ける中で、長年にわたる審判員諸先輩方の貴重な経験から、非常に多くのことを学び、審判員同士で情報を共有し、よりよい競技会になるよう努めて参りました。

日本陸連の提唱する「アスリートファースト」の考え方の実践のために、あくまでもルールの基づくなかで、自分たちに出来ることを日々、模索し、各大会で実践をし、その反省を次の大会に生かすべくTRY&ERRORを繰り返し、「今日より明日へ」県内の大会の向上と、協力大会でも十分に対応出来る、現在の陣容が出来上がりました。このことに甘んずることなく、奇しくも2020年東京オリンピック大会に向け、さらなる精進を続けて参ります。

(文責：審判部長 佐藤浩一)

**JAAF**  
NIIGATA

一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12  
デンカビッグスワンスタジアム内  
TEL.025-257-7636 FAX.025-257-7691  
<http://www.nrkk.net/>

新潟陸上競技協会も平成27年に創立70周年を迎えました。71年目を迎え、今後も大橋誠五会長以下陸上競技の発展のために一丸となって取り組んでまいります。

そんな中、全日本実業団対抗において、新潟アルビレックスRCが団体総合優勝を果たすという大変嬉しいニュースが届きました。地元チームの活躍に県内のジュニア選手は大いに刺激を受けております。

また、創立70周年記念のイベントとして11月23日に日本陸連会長の横川 浩 様の御臨席を賜り記念祝賀会を開催し、合わせて記念誌を発刊することができました。御出席を頂きました関係各位にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

更に、ビッグスワン発着の新潟ハーフマラソンを3月20日に開催することとしております。米所新潟ならではの風光明媚な田園コースでの走りを是非マラソン愛好家の皆さまにお楽しみいただければと思います。

(文責：総務部長 岩崎雄一)



日本陸連 横川会長



新潟県の郷土芸能

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連ファン投票「Most Impressive Athlete 2016」結果のお知らせ◆◆

「2016年最も印象に残ったアスリートは誰だ!？」というテーマにて今年もファン投票を実施し、4275票の応募をいただきました。TOP 3をご紹介します。

- 第1位 山縣亮太 (セイコーホールディングス)
- 第2位 ケンブリッジ 飛鳥
- 第3位 大迫傑 (Nike ORPJT)

その他の結果とTOP 3のコメントはこちらでご確認ください。  
<http://www.jaaf.or.jp/fan/news/2016/mia.html>



写真は山縣選手・ケンブリッジ選手とプレゼンターの室伏重信氏

◆◆「#2017年私の目標」大募集！サイン入りカレンダーが当たる！◆◆

2017年がはじまり、ニューイヤー駅伝や箱根駅伝、マラソン大会などが各地で開催され、日本陸上界は既に動き出しています！そこで、日本陸連では皆さんの「#2017年私の目標」を大募集します。

■応募方法

- ・Twitter、Instagramで日本陸連公式アカウント (@jaaf\_official) をフォロー
- ・ハッシュタグ「#2017年私の目標」を入れて、皆さんの目標を投稿
- ・投稿はお一人様Twitter、Instagramにそれぞれ1回のみでお願いします

■プレゼント

Twitter賞、Instagram賞をご用意し、サイン入りカレンダーなどをプレゼントいたします。

応募期間、条件、プレゼントの詳細は、日本陸連公式WEBサイトでご確認ください！

<http://www.jaaf.or.jp/> 又は



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 伊東 浩司 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 高橋 祐哉
- 小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717  
東京都新宿区西新宿2-7-1  
小田急第一生命ビル17階  
公益財団法人日本陸上競技連盟 内  
TEL 03-5321-6580  
FAX 03-5321-6591  
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>  
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>